

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171000565		
法人名	医療法人社団 豊生会		
事業所名	グループホーム すぎの子の郷		
所在地	当別町春日町97-1		
自己評価作成日	平成24年9月27日	評価結果市町村受理日	平成24年10月31日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。  
<http://www.kaijokouinyou.jp/kaijosiip7/information/public.do?JCD=0171000565&S-CD=320&PCD=01>  
 基本情報リンク先URL

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・緑豊かな当別町の中心部に位置し、施設側には、ヤギを飼育しており、入居者さんが散歩途中で足を止めて、餌をやったり、近所の保育園児が遊びに来たりされています。雪の多かった昨年は「ヤギの脱走」もあり、ご近所に迷惑もかけたり、当別ならではの事件もある環境です。また、開所してから、6年を過ぎ、地域との交流も増え、困った事があつたら、声をかけたり、掛けられたい出来る関係が築かれてきたと思っています。家族様との関係もでき、「すぎの子の郷」の行事には多分もう年間行事予定に入っているのではと感じています。「認知症」があり、家族だけでは楽しめない外出・季節の行事でも、「郷」なら愉しめると感じて貰えるように、家族が参加できる行事を意識して実施しています。入居者様の心身の状況に合わせて、「生活」の支援をさせて頂いています。食事等は特に献立は決まっていますが、季節や入居者様の希望等に合わせて、提供させて頂いています。たまにはお洒落をして、「ホテル・ランチ」で職員も一緒に愉しむ事もあります。同じ時間の共有をしながら、「すぎの子の郷で良かった」と言われるように、少しでも一緒に「笑える」時間を提供しています。

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成24年10月15日

当別町の緑豊かで閑静な住宅地に建つ、2階建て1ユニットの事業所で、1階には、デイサービスセンターと居宅介護支援事業所が併設されている。広い庭には花壇や菜園、桜の木等があり、四季の移り変わりを身近に楽しむことができる。管理者や職員は笑顔と優しさで、利用者と共に過ごす時間を大切にしており、年間行事計画の中に、家族が参加できるバス旅行・ホテルでの昼食会や事業所内行事の敬老会・新年会・蕎麦打ち等があり、家族にとっても楽しい時間であり、参加者も多い。地域住民との交流も盛んで、利用者の町内会行事の参加や、事業所のはつらつ祭りや防災訓練にも近隣住民が参加している。また定期的に開催している運営推進会議には、利用者・家族・地域住民・町役場職員・地域包括支援センター職員・消防署員が参加し活発な意見交換を行い、終了後は交流会を開催し親交を深めている。事業所が持つ、高齢者福祉や介護の知識や技術を地域に還元しようと、町役場のホールを利用し認知症の研修会を開催する等、地域に根差したぬくもりあふれる事業所である。

.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロア内に掲示して見やすくしたり、携帯できるようにカードにして職員へ配布したりして意識付けをしている。	『事業所の理念』、運営母体である『医療法人の理念』、総合支援センター『はつらつ当別の理念』の、3つの理念があり、職員は名札の裏に理念カードを入れ、日々確認しケアの実践に努めている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事や保育所の運動会など、地域行事に積極的に参加するようにしており、施設行事でも、地域住民の方々もお誘いして交流を図っている。	利用者は、新年会や夏祭りなどの町内会行事に積極的に参加し、地域住民は事業所行事のはつらつ祭りや避難訓練に参加している。日本舞踊・蕎麦打ち・折り紙等のボランティアの訪問も多い。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民を対象とした研修会の開催や認知症サポーター講座への出席など、認知症の理解の普及に取り組んでいる。地域との緊急連絡体制もある。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に関係機関や家族様、地域住民の方に参加してもらい、情報交換、状況報告を行っている。参加出来なかった家族様にも、書面で通知している。	利用者・家族・町内会役員・町福祉課職員・地域包括支援センター職員・消防署員等が出席し、活発な意見交換が行われ、事業所の運営に効果を上げている。議事録は整備し、利用者家族に送付している。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	研修会、地域・施設行事、防災訓練、推進会議等での交流や、協力関係を構築している。今回は共同で講演開催する。	町福祉課と情報を共有し、常に利用者本意のサービスの質の向上に取り組んでいる。地域住民向けに、町役場のホールで認知症の研修会を、共同で開催する等、連携を構築している。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月一の会議で、拘束がないか確認しており、日常生活でも拘束にあたるような可能性がないか意識して業務にあたっている。	指定基準を具体的に確認し、基本的なケアの実践に活かすよう、職員相互の共有をはかっている。拘束や虐待のマニュアルも整備し、事業所内勉強会も開催している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会へ参加して虐待への理解を深める機会を作り、意識してケアを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者はもちろん、職員も任意で勉強会に参加し、必要な場合は活用できる準備は出来ている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が対応している。これまで、不満、苦情等のトラブルはない。説明は、事前の面会を含め、十分に行っている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議や、家族様の面会時などにコミュニケーションをとることで、家族様の思い・日常の中での入居者様の気持ちなどをくみ取れるように努めている。	意見箱を設置している。来所時の会話の中から希望や要望をくみ取り、家族の思いを運営に反映するようにしている。また利用者の日常の様子分かるように、毎月事業所便りを発行している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事考課での話し合う機会は定期的に確保されている。他では、決まった機会はないが、日常の業務の中や会議の場などでそのような環境がある。	月に1度の全体会議や、年2回の個別面談の機会などで、職員の意見等を聞いている。また日常の業務を通じ、常に話し合いをし運営に反映している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	リフレッシュ休暇、福利厚生、資格取得による手当など、職員への還元を考えてくれている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外研修の機会を多く作ってくれている。内部研修は、経験年数に合わせた研修スタイル。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括との連携やケア会議での活動他、SOSネットワークとの連携は施設としても体制がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談や、家族様に事前に情報を書式に記入していただいている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時、面談時、日常の面会時など、こちらから何かないか聞いたり、話の中から聞き取りをしたりしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の情報収集やフェースシートなどの作成のアセスメントから必要な支援を導き出せるよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごす時間を、共に生活するものとして時間を共有するようにしている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報は面会時に開示したりして共有し、行事時など、必要なときは協力していただけるような関係づくりをしている。行事を共有しながらも信頼を得られるようにしている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員は笑顔を絶やさないように、誰でもいつでも来ていただける環境を作り、遠慮されないように対応している。	家族同伴の外出行事や外食は、年間行事に多数計画されており、日々喜びや張りのある生活が送られるよう支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で活動できる場や会話でも、職員と1人の入居者様ではなく周りを巻き込んで話したり、協力して作業であったり能力にあったレク等を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、何かあれば相談をうける体制がある。可能な場所であれば面会に行く事もある。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なじみのものを居室に置いたり、宗教を大切にされている方には、家族様の協力のもと、対応できる部分是对応している。希望・意向の聞き取りや読み取りが困難な方には家族様からの情報を元にして支援している。	一人ひとりの思いや意向を把握し、家族や周囲からも情報を得て、心身の状態に配慮しながら、本人の希望に添えるように努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報や、入居後でも、本人様や家族様からの情報を元に支援できるようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録やNSによる体調管理、日々の観察から会議でカンファレンスを行うことで把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議でのカンファレンスや本人様の状況、家族様からの意見などを元に、その時の現状に即したプランの立案を行っている。	毎月のモニタリングをもとに、現状に即したケアプランを作成している。変化が生じた場合は随時見直しを図り、実情に即した介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の際に、プランを確認し実践できているかの確認をしている。記録は、必要な事はできるだけ詳細に記載するよう努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様や本人様からの意見などで、必要と判断した部分は、できるだけ対応できるように、努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事の参加や定期的な地域ボランティアの活用など、通年で地域との繋がり、協力体制、交流ができています。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診や必要に応じての受診は出来ている。緊急時でも対応できるときはお願いしており無理な場合は家族様と話し、状況にあった病院へ受診している。	利用者は、それぞれのかかりつけ医を受診しており、通院介助もしている。事業所には看護師2名が勤務し、利用者の健康を支えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	NSが常勤でいる事で、バイタル測定や、体調不良時の助言、処置などができている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	Dr、家族様との連絡をとり、状況把握に努めるとともに、見舞いにも行ける時は行き、本人様の状態も確認している。記録して他職員も周知できる。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアに関しては、検討中。医療体制が十分でないのが今後の課題となる。	医療連携体制の下、『重度化した場合における対応に係る指針』を作成しているが、町内では医師の確保が難しい状況である。	重度化した場合や終末期医療については、利用者や家族の大きな関心事であり、不安要素となる場合がある。2週に1度の訪問診療が可能で、緊急時には24時間体制で連絡が付く、協力医の確保が必要である。医師や看護師等、病院関係者を交え今後の方針を定めていくことが期待される。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時、急変時のマニュアルを作成し、迅速な対応ができるようにしている。管理者からの緊急連絡体制も周知。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防、家族様、地域住民との合同防災訓練の実施や避難訓練、AEDの使用訓練などを毎年実施し、協力体制を整えている。	年2回消防署の協力の下、利用者や近隣住民と共に避難訓練を行っており、消防署員は運営推進会議にも出席している。万が一の災害に備え、食品や飲料水等の備蓄品も準備している。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳、プライバシーに配慮した行動、言葉遣い等に努めている。定期的にDCM実施して自己評価に努めている。	生活歴や暮らしぶりの中から、一人ひとりの個性やプライバシーについて意識し、尊厳を守るケアに結びつけている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を尊重できるように働きかけるよう努めるとともに、日々の言動にも注意を払い何を思い、何を求めているのか、くみ取れるよう努力している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の心身の状況や希望に添いながら日々の流れを一緒に過ごせるように援助している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔を保ち、外出時には一緒に服を選んだり、訪問美容を利用したりしている。外出用の服洋装もあり、たまにはお化粧品される事もあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の嗜好、食べやすい形態を考慮しながら、できる方には調理や片づけを手伝ってもらいながら準備、食事をしている。	利用者の嗜好や、心身の状況を考慮した食事を提供している。利用者と共に食卓を囲むことで、体調変化や嚥下状態等に気付くことができる、良い機会となっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は全員、水分摂取量は、必要な方に関して記載している。常に1日1リットル以上は水分摂取できており、脱水症状などは見られない。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を利用し、必要な方へのケア、処置を行っている。施設でも、朝晩の口腔ケアを実施して、状態の把握に努めている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態にもよるが、トイレでの排泄、失禁せずにできるよう時間を考えながら声掛けしたり、入居者様の言動も見ながら誘導をしている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、周りの人に気づかれない様に、さりげなくトイレ誘導している。3ヶ所あるトイレは使いやすく整備されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	夕食時には汁物に糸寒天をいれたり、朝食には穀物入りの主食を用意。水分量の確保など、内服になるべく頼らないようにしている。排便も管理し看護師と連携している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望があればいつでも入浴できる状況。希望できない方でも、2日以上は空けないよう配慮している。	本人の希望する曜日・時間に入浴できるよう支援しており、希望があれば毎日でも入浴ができる。好みの入浴剤を使用し、リラックスして入浴している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天候が良い時は外気浴や散歩、買い物などを行い、活動機会を作り、夜間良眠できるよう努めている。また、習慣や体調に配慮して休んでもらえるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルに服薬表を保存し、いつでも確認できるようにしている。受信時はDrと相談し必要最低限の服薬量にしており、服薬が難しい方に不快感なく、納得して服薬出来るように形態・飲料等安心される声掛けを心がけ支援している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意な事を踏まえた役割や遊びなどを検討し提供できるよう努めている。毎日の体操レクも入居者様が飽きないように色々工夫され提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月、外出行事を企画しており、他にも、近隣のお店へ買い物に行ったり散歩をしたりと外出機会は確保出来ている。	日常的に散歩や買い物に出掛けている。居間から続く広いテラスがあり、気楽に外気にふれられる様に、配慮している。自然に屋外へ出掛けられるように、外出行事が年間計画の中に多数盛り込まれている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に自己管理できる方はいないが、希望もありません。外出時などは、判断できる方は、レジで支払いができるように支援する事もあります。			
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時の対応や、年賀はがき、暑中見舞いのやり取り、手紙のお返しなど、適時声掛けて時には促したりして対応。毎月の請求には手書きの一通書も同封しています。			
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	装飾や、季節の歌を書いて張り出したり、写真を張るなど、目で楽しんでもらうとともに、室温やにおい、椅子を各所において休めるところを多く作るなどしている。	居間は広くゆったりとした造りになっており、利用者の作品や行事写真が随所に飾られ、南向きのテラスは日光浴や暖かい日のティータイムに利用されている。採光・臭気・温湿度・換気に注意を払い、清潔で居心地のよい共有空間となっている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ以外のスペースもあり、好きな場所で過ごす事ができる。			
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物を置いたり、本人様が使いやすいようにして、安心、落ち着く、空間になるようにしている。仏壇等で毎朝お参りされる方も居ます。	居室には、自宅で使い慣れた私物や調度品などを持ち込み、馴染みの品々に囲まれ安心して寛いで過ごせるよう配慮・工夫している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要か所に手すりの設置、電気のスイッチに張り紙など、自分で歩く、つけるなどができるよう配慮するとともに、職員も必要以上に介助に入らず見守りするようにしている。			